

第3回検証委員会の意見に対する対応状況(案)

番号	区分	委員	委員意見	対応状況
1	委員会	今泉委員	・水文特性と地盤の構造との対応関係について、検討の余地があるのではないか。(R-4とR-1からR-3の対応関係がどうなっているのかというのが気になった。R-1からR-3で他所から来た水が流出しやすい、でもR-4では流量が極めて少ない。その間で水が抜けているとか)	外部の知見も踏まえ新たに判明したことを今後、水文特性と地盤構造の対応関係について、地質の項目を追記する。
2	委員会	小高委員	・まとまった雨が降るとボーリング(No.2)の水位が下がってしまうぐらい一気に水が流れ出てくるといえると思う。急激に大きな雨が降ったときに、R-2の流量が増えているのが非常に貴重なデータだと思う。こういうのも含めて、今後メカニズムの解明が進むかと思う。	
3	委員会	沢田委員	・降雨量だけではなくて、例えば鳴沢川側の上流側の尾根の辺りでも被圧水があるかもしれないということも含めて考えてもいいんじゃないかと思う。降った雨が集水で集まって動いてるだけじゃないということは、大事なことなのでどこかに示されておくのがいいと思う。	
4	委員会	小高委員	・盛土が崩壊を始めると、どのように進行的な破壊をしていくのか。それなりの解析をしなければ、説明に耐えられるような結果は得られないと思う。崩壊の再現解析をこれからされるとのことなので、その辺を目指してやっていただきたいと考える。	新たにGEOASIAによる崩壊メカニズムの解析を行った。現地の地形は、ある程度簡略化し、計算のパラメータは過去の調査結果を用いて、計算的に解析を実施している。今後、より再現性の精度を高めていく。
5	委員会	今泉委員	・第7章について、水文調査の結果を踏まえて、地下水の状況を仮定するところですが、実際にどう仮定していくかというのがポイントになるのかなと思う。仮定というのが、きちんと1つの値として与えるのは難しいと思うので、幅を持たせて何パターンか計算せざるを得ないのかなという印象。	
6	委員会	沢田委員	・崩壊の再現解析について、どこを着地点にして、どうなったら大方は再現ができたんだと、決めないと、終わらないことをやり続けることになるので、現状わかっていることは、ここまで、これは仮定だから、この仮定を使ったらこうなってしまうかもしれない成果を含んでいるという落としどころを作っておかないといけない。 ただ、できる限りの、再現性とできる限りの情報を使ってやっていただければと思う。	
7	委員会	今泉委員	・やみくもに崩壊解析のパターンを増やしても、どれが最も正しいかと、特定することは困難だと思うので、ある程度共通的に、例えば斜面脚部が、まず不安定化しやすいとか、そういった傾向について検討していくというのも一つの方法なのかなと思う。	
8	委員会	小高委員	・崩壊の解析でやはり一番ポイントになるのは、最終的にこれだけ大きな崩壊が起きたことを再現できるかどうかと考える。 調査結果を使って、このような大崩壊が起きたという事実をまずは確実に確認する。今後そういうことができるような解析で、水文のことなどを仮定してパターン化はするのかもしれないが、最終的に大きな崩壊が起こった事実を再現しなければいけないと思う。	